

なぜ、めしべは1本で、おしべは数が多いの



花粉がないとたねはできないけど、めしべにたどりつける花粉は少ないので、花粉の数をふやすためおしべが多いのさ。

ふつう、同じ種類の別な株かぶの花粉をもらって、たねができる

花の役目は、植物がほろびてしまわないように、たねをたくさんつくって子孫を残すことです。たねは、めしべのもとにある子ぼうにできますが、そのためには、めしべの先ちゅうとう（柱頭）に同じ種類の別な株の花粉を受け取るじゅふん（受粉）ことが必要です。

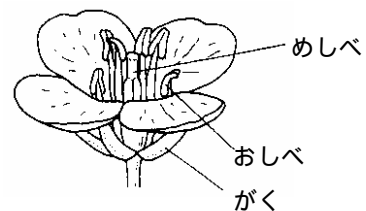
同じ花のおしべの花粉をめしべがもらってたねができると、病気やさまざまな変化に弱い子孫ができやすいのです。そのため、たいていの花は、同じ種類の別な株かぶの花粉をもらうようなくみになっています（アサガオのように、同じ花の中で受粉する植物もあります）。

花粉がめしべにたどりつくのは、むずかしい

別な株の花粉をもらうためには、ハチやチョウなどに運んでもらうか、風などに花粉をとばしてもらうしかありません。

ちょうどよい時期に、別な株の花粉を運んで虫が花にきてくれるのは、運がよいときだけになります。そのため、花はたくさんの虫をよびよせようと、目立つ色の花びら、あまいみつ、強いにおいなどを用意し、おしべの数も多めにもっています。

風が花粉を運ぶのも、ちょうどよい時期に、風がふく方向に同じ種類の別な株の花がなければ、受粉できません。だから、風で飛びやすい形や軽さの花粉を多数のおしべに用意し、遠くまで運ばれるようにしています。



おしべが多い
アブラナの花